

※文字の大きさは Meiryo UI /12 ポイント以上とし、上下左右の余白は変更しないでください。
※各項目の枠の幅は変更可能ですが、必ず A3 用紙片面におさまるように作成してください。
※画像、写真、イラスト等は、用紙の中におさまるようにし、ファイルサイズは 5 MB 以下としてください。

【様式 2】

研修成果の活用レポート/NITS 大賞エントリーシート	※事務局記入欄
※研修成果の活用レポートは、NITS 大賞エントリーシートと同様式です。NITS 大賞に応募される方は、推薦者への提出とは別に、< award@ml.nits.go.jp >宛て、メールにてお送りください。なお、メール送信後、3 日以上受領メールが届かない場合はご連絡ください。	受理No. : B-26
【学校名・氏名】 福島県岩瀬郡鏡石町立第一小学校 安瀬貴幸	【応募部門】
【修了研修名】 平成 3 0 年 第 3 回 中堅教員研修（小学校）	働き方改革実践部門
【活動名】 特設クラブの見直し ～多忙化解消を目指して～	
解決すべき課題：※活動を行う前に、どんな課題設定をしましたか？	
前任校である福島県石川町立石川小学校には、特設クラブと呼ばれる課外活動がある。自転車部・陸上部・合奏部・合唱部・科学部の 5 つがあり、いわゆる中学校で行われる「部活動」のように、多くの職員が放課後や週休日に長時間指導に当たっていた。例えば、午後 5 時 3 0 分までの活動が週に 4 ～ 5 回あり、土曜は午前 8 時から正午まで練習するクラブもあった。さらに、大会やコンクール直前の夏季休業中には、児童に昼食を持参させて、午前 8 時から午後 5 時まで行うこともあった。 そこで、平成 3 0 年度第 3 回中堅教員研修の講座「マネジメントの実践」（平成 3 0 年 7 月 3 1 日茨城大学大学院准教授 加藤崇英先生）で学んだことを実践したいと思い、次の課題を設定した。 ○県の施策や数字によるデータを根拠にした特設クラブの見直し	
目標・方針：※課題を解決するためにどんな目標や計画、戦略や方針をたてましたか？	
○特設クラブの活動内容・時間の削減 ○各部の年間計画の見直し	
活動内容：※何を行ったか、具体的に記載してください。	
【平成 3 0 年 1 2 月 教育課程編成会議】 次年度の教育課程を編成するに当たり、今年度の反省や改善点については話し合う機会があった。そこで、特設クラブの各主任に話を聞くと、「学校が地域の中心校であるため、長年培われた伝統やクラブに対する保護者や地域からの要望もあり、なかなか今までの流れや練習時間を変えられない。」「大会やコンクールに出るには、きちんと練習させて立派なステージにする責任がある。」「子どもたちががんばろうとしているから。」という意見があった。 しかし、他の教職員からは、「練習時間は勤務時間内で終えたい。」「土曜練習が当たり前になっているのはおかしい。」「1 年中活動が続いていて休む暇がない。」「同じ特設クラブの先生方が集まって翌月の練習時間について話し合うが、時間を減らしたいとはなかなか言いにくい。」という意見もあった。	
【平成 3 1 年 1 月上旬 課外活動主任会において次年度の方針】 平成 3 0 年 2 月に福島県教育委員会で提案された「福島県多忙化解消アクションプラン」では、部活動休養日を以下のように設定している。 ○中学校 平日週 1 日 及び土日いずれか週 1 日以上 ○高等学校 平日週 1 日 及び土日いずれかを月 2 日以上 また、部活動練習時間の上限を以下のように設定している。 ○中学校 平日 2 時間 休日 3 時間 ○高等学校 平日 3 時間 休日 4 時間 さらに、そのプランでは、大会等への参加の在り方を見直し、大会等の参加を精選するよう提言された。	

これを受けて、1 月上旬に「課外活動主任会」を開き、次年度の方針について以下の内容を提案した。

○各種大会、コンクール、イベントなどを精選する。

→「取り組まなければならないもの」と「取り組んだほうがいいもの」に分ける。その上で、「取り組んだほうがいいもの」に関しては、回数や時間を少なくしたり、簡略化したり、削減する方向で本年度中に検討し、計画を立てるようにする。

○水曜と金曜、学期末成績処理期間や、その前の土日、研究公開の週は、課外活動を行わない。

→ 学年会や職員会議、現職教育などが予定されている水曜日や金曜日には、活動を行わないことを暗黙の約束になっていたが、職員が 4 月に入れ替わることでその約束が曖昧になっていたため、この機会に明文化することで学校の基準を定めるようにした。

【1 月中旬 次年度特設クラブの方針についてのアンケート実施】

「課外活動主任会」で確認した内容を周知し、各部に以下のようなアンケートを無記名で行った。

各種大会、コンクール、イベントなどのうち、優先順位をつけるとするならば、どのようになりますか。	
アンケート集計後、それぞれの点数を合計して、優先順位を明確にしたいと思います。	
①必ず取り組まなければならないもの……………	1 0 点
②回数や時間を少なくして簡略化したいもの………	5 点
③削減したいもの……………	1 点

すると、次のような結果になった。（陸上部の場合 満点 60 点 = 1 0 点×6 人分）

4 月 春のマラソン大会 （4 0 点）	8 月 保護者によるバーベキュー （1 4 点）
4 月 保護者会 （5 5 点）	1 0 月 隣接市町村主催のマラソン大会 （1 0 点）
6 月 陸上大会地区予選 （6 0 点）	2 月 課外活動見学会 （4 5 点）
7 月 陸上大会県予選 （6 0 点）	3 月 6 年生を送る会 （3 5 点）

【1 月下旬 教育課程編成会議において次年度の特設クラブの活動方針提案】

1 月上旬の「課外活動主任会」の内容と、1 月中旬に行ったアンケートの結果を全職員に提示した。学校全体では、活動の休養日の設定（水・金・日）、土曜の練習時間（最大 3 時間）を設定した。また、次年度の 4 月までに各主任に活動内容・時間の削減と年間計画の見直しを徹底した。

活動の成果：※それによって、どんな成果が得られましたか？

○年間活動時間の大幅な削減（前年度比）

→陸上部：－9 時間 4 5 分 合唱部：－1 5 時間 4 0 分

合奏部：－7 8 時間 5 5 分 自転車部：－7 3 時間 5 分

○年間計画の内容の縮小・軽減

→年間計画の行事の回数はあまり減らなかったが、既出のアンケートの点数を参考にしながら、各行事の準備や内容の簡単化などの工夫が見られた。

アピールポイント（アイディアや工夫）：

○「量から質への変換」

→活動時間を増やすか減らすかという視点でなく、方法や内容を工夫して質を高めることを提案した。

○「多忙感の解消」

→教員が全員で指導せずに輪番で行ったり、1 年間の中で活動が増えるオンシーズンと活動を減らすオフシーズンをできるだけ設けたりすることで、職員が感じる多忙感を解消した。